

やまぶき荘及び周辺整備に関する意見書

平成 26 年 11 月 27 日

やまぶき荘及び周辺整備構想検討委員会

＜やまぶき荘及び周辺整備に関する意見書＞

やまぶき荘及び周辺整備構想検討委員会は、現行のやまぶき荘施設等の老朽化、周辺のスポーツ施設の整備という直近の状況を踏まえ、風光明媚な庄川沿岸の立地環境の優位性を生かす中で、今後のやまぶき荘施設や周辺施設を含めた整備、管理・運営等の基本的な方向性を検討するため、委員会において多方面の議論を重ね、「やまぶき荘及び周辺整備に関する意見書」として取り纏めましたので、ここに提出いたします。

記

1. やまぶき荘及び周辺施設に対する基本コンセプト

やまぶき荘は、近年の顧客ニーズの変化等から宿泊利用客は減少傾向を示していますが、入浴や高齢者等の地域交流の場としての日帰り利用客は増加傾向を示しています。なお、単年度収支の赤字基調が続く中、人件費等の固定経費のこれ以上の削減は困難であり、現行施設の改修には多額の経費を要するものとなり、将来に向けた運営課題が生じています。

また、周辺施設では、庄川勤労者体育センター、パットゴルフ場、グラウンドゴルフ場が立地し、平成 27 年度に、人気が高いパークゴルフ場が本格的な 36 ホールとして開設予定であり、健康づくりの拠点化に期待されています。更に、加速する高齢化に対する視点は不可欠と思われ、周辺の庄川健康プラザとの連携による活用が求められます。

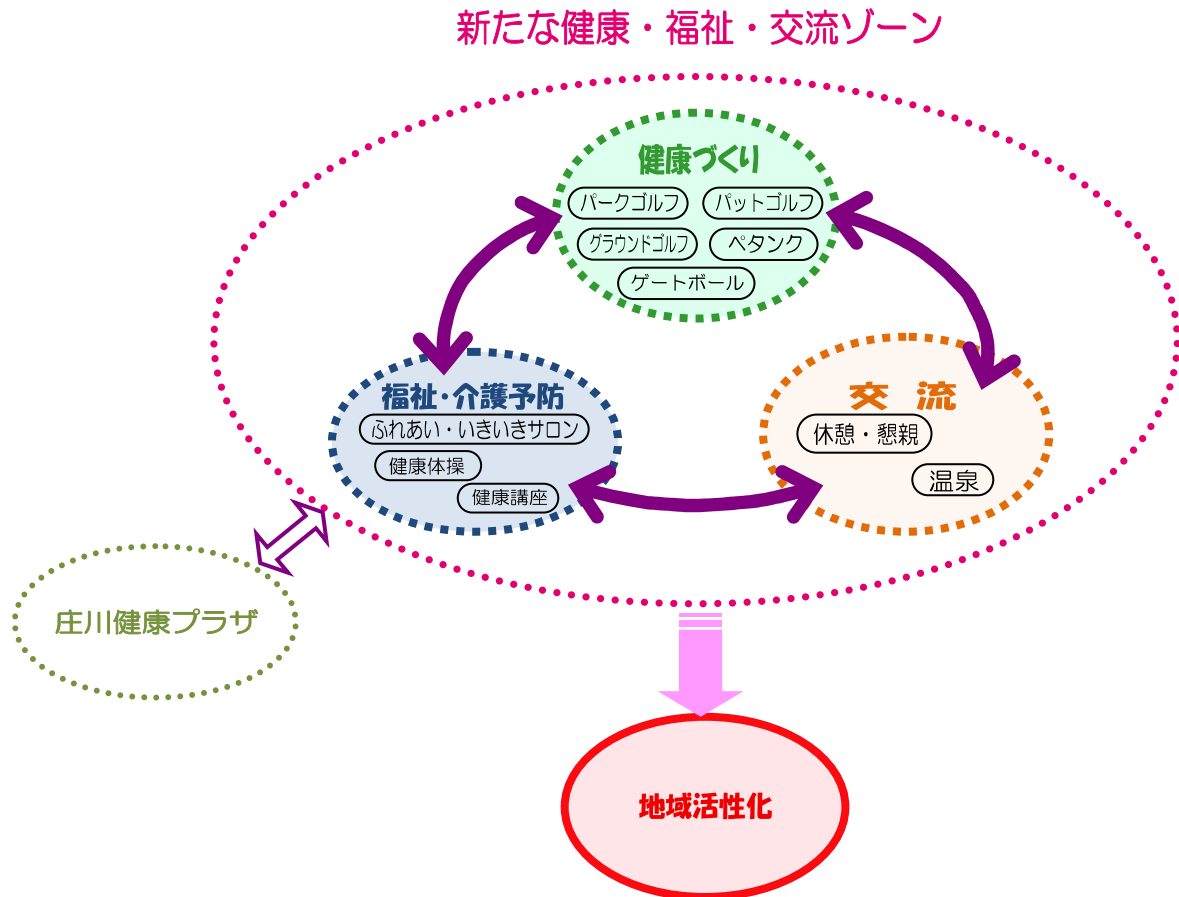
このような観点を 3 本の柱とし、庄川地域の持つ固有資源、庄川地域が育んだボランティア活動を生かし、新たなやまぶき荘及び周辺一帯（以下、新たなやまぶき荘を「新たな健康・福祉・交流施設」、新たなやまぶき荘を含めた周辺一帯を「新たな健康・福祉・交流ゾーン」という。）については、機能性・利便性の向上を図るため、一元的管理を行い、「庄川清流温泉」を大きな魅力のひとつとし、軽スポーツ活動を促す健康拠点、外出支援・介護予防を促す福祉拠点、地域情報の発信と地域人材の発掘を促す交流拠点として、次の基本コンセプトによる新たな施設整備を提案いたします。

＜基本コンセプト＞

「庄川清流温泉」を楽しめる 健康・福祉・交流拠点

2. 新たな健康・福祉・交流ゾーンの基本概念と機能

基本コンセプトを踏まえ、新たな健康・福祉・交流ゾーンの基本概念を示すと、屋内外施設を利用した「健康づくり」機能、利用の底堅いサロン活動や要介護者とならないよう介護予防活動を受け入れる「福祉・介護予防」機能、温泉の魅力による交流拡大や地域人材を活用する「交流」機能を有機的に展開するものとし、新たな健康・福祉・交流ゾーンには、下図のような基本概念を提案します。この基本概念の具体化により、庄川地域の「地域活性化」に繋がるものと期待します。



① 健康づくり機能

- ・市内で初めて整備されるパークゴルフ場を始め、パットゴルフ場などの屋外施設と連携する屋内施設機能を整備するとともに、高齢者にも対応した導線の確保を図る。併せて、地域柄、冬期間や雨天時などに対する通年利用機能の確保も重要であり、屋内練習、室内でも可能なペタンク、ゲートボールなどが楽しめる施設の併設が必要である。

② 福祉（生きがい活動）・介護予防機能

- ・地域住民の生きがいづくり、仲間づくりを進める「ふれあい・いきいきサロン」事業などを積極的に受け入れる。
- ・庄川健康プラザで実施するウォーキングプールやリハビリ器具を活用した事業と連携し、身体機能を改善する軽運動、栄養改善など、初期的な介護予防機能を受け入れる。

③ 交流機能

< 飲食・休憩 >

- ・ 飲食を楽しめる軽食ブースやスポーツ前後の小休憩の場を確保するとともに、各種団体による飲食を伴う会議・交流会等に利用できる施設機能を確保する。

< 温泉 >

- ・ 庄川の清流、景観が堪能できる温泉機能の充実を期待するとともに、気軽に温泉を体感できる足湯スペースを設けるなど、地域住民の憩いと観光客に対する魅力を付加したものが望ましい。

④ 地域活性化

- ・ 管理・運営に関して、一元管理の効率化を図るとともに、地元の事業者を視野に入れた指定管理制度の導入や人材雇用を積極的に行う。
- ・ お土産物・特産品などの販売スペースや庄川地域・砺波市内の観光案内スペースを設け、地域情報の発信を行う。

3. 新たな健康・福祉・交流ゾーンの整備指針

基本コンセプト及び具体的な機能を踏まえ、新たな健康・福祉・交流ゾーンの施設整備、運営の在り方について、次の点について、提案します。

① 新たな健康・福祉・交流施設

- ・ 既存施設は老朽化し、耐震性、バリアフリーに対する問題があり、大規模改修事業により限定的な施設機能の向上を図るよりも、新たな機能に相応しい全面改築が望ましい。
- ・ 新たな施設は、木の温もりが感じられる構造を基本とし、高齢者に優しい平屋建てが望ましい。
- ・ 行政が運営する施設として、宿泊機能は求めない。
- ・ パークゴルフ場等の屋外施設の利用者の利便性が必要であり、各施設の窓口機能を集約する総合的な受付機能を設け、隣接の庄川勤労者体育センターとの連絡機能を設ける。

② 庄川パークゴルフ場（仮称）

- ・ 平成 27 年度の開設に向けて、36ホールのコース整備を推進する。なお、芝生養生を図る予備コースの増設が望ましい。

③ 庄川河川敷公園 芝生広場（庄川パットゴルフ場）

- ・ 庄川パットゴルフ場は、現状のままとし、更なる利用需要の掘り起こしが望まれる。

④ 庄川河川敷公園 芝生広場（グラウンドゴルフ場）

- ・ グラウンドゴルフ場は、今後の河川敷一帯の利用状況を見据え、関係組織とあり方を検討する。

⑤ 庄川勤労者体育センター

- ・ 前述のとおり、一体的な屋内施設としての利用価値に着目し、床の土間化（砂入り人工芝）を図るとともに、安全性の確保を図る耐震工事等が必要である。

⑥ 関連整備

- ・ 市道舟戸橋雄神橋線について、交通安全対策の向上を図るため、道路線形の見直しや、山側の安全性向上を図る急傾斜地対策、駐車スペースの一体確保を図るため、用水路の蓋掛け整備等の検討が望まれる。

4. 新たな健康・福祉・交流施設の建設候補地に対する意見

新たな健康・福祉・交流施設の建設候補地については、新たな健康・福祉・交流ゾーンの整備を目指し、効果的な一体管理が必要とされることから、庄川勤労者体育センター周辺の立地が望ましいと言えます。

その上で、現有施設の立地場所で建て替える案（A案）と庄川勤労者体育センター北側に移転して建て替える案（B案）の両論の検討を行うものとししました。

委員会としては、丘陵地、庄川河川敷に隣接することから、「土砂災害警戒区域」及び「河川区域」に対する資料、並びに、「活断層調査」に対する資料及び専門家による意見聴取を事務局に求め、その他の条件、経済性、施設管理一体化の優位性なども含めて、両案に対する検討を加え、主な意見を提出します。

	立地イメージ	メリット・デメリット
A案		<p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用地購入費が不要であり、限られた建設費に重点投資できる。 ・基本的に、河川敷エリアとの連絡ルートや屋内体育施設との連絡ルートが確保されている。 ・入浴施設のロケーションに優れている。 ・施設利用者の駐車場が隣接地に確保できる。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害警戒区域を避けるため、細長い構造施設となり、建築計画の工夫が必要になる。 ・現有施設の取り壊しが優先され、入居中の作業所の移転とともに閉館期間が生じる。 ・丘陵部が接近していることから、急傾斜地対策を検討する。
B案		<p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな用地購入による建設のため、建築計画に制約が少ない。 ・パークゴルフ場などの連絡性に優れている。 ・丘陵部からは比較的、離れている。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用地買収が必要になり、隣接する屋内体育施設との差高解消のため、造成費用を要し、施設建設費の経費が圧縮される。 ・近年、庄川水辺プラザ整備事業（公共事業）で整備された一部分を取り壊すことに加え、河川敷の追加使用許可について支障がある。 ・ゴルフ場等に隣接し、入浴施設の整備手法に工夫がいる。

5. 新たな健康・福祉・交流施設の整備指針

新たな健康・福祉・交流ゾーンについては、前述のとおり基本概念と機能を示しましたが、新たな健康・福祉・交流施設については、次のようなエリア区分と機能のもと、これらを組み合わせた手法により整備することを提案します。

エリア区分	エリア内の機能
I <エントランス>	・ 玄関ホール、総合受付・事務室の設置
II <ロビー>	・ 観光案内・特産品販売コーナーの設置 ・ スポーツ入浴後の休憩スペースの設置 ・ 幅広い年代層を対象とする図書コーナーの設置
III <休憩スペース>	・ スポーツ・入浴前後に軽飲食を楽しめるブースの設置 ・ 庄川・河川敷が見渡せる足湯施設の設置
IV <交流スペース>	・ 健康・福祉活動や交流の場に利用する多目的広間の設置 ・ 小グループの活動の場として利用する小部屋の設置
V <やすらぎスペース>	・ 庄川・河川敷を眺望しながら「庄川清流温泉」を楽しめ、ゆとりある温泉施設の設置 ・ サウナや露天風呂の併設

6. 整備における配慮事項

最後に、新たな健康・福祉・交流ゾーン及び施設の整備に際して、特に、次の点に配慮されることを要望します。

① 防災対策への配慮

・ 新たな健康・福祉・交流ゾーンは、急傾斜地が近くにあり、全体ゾーンの一部が土砂災害警戒区域に指定されているほか、井波庄川地域には砺波平野東部を縦断する高清水断層が走っている。については、新たな健康・福祉・交流施設の建設に際しては、造成工事における地盤改良・施設の耐震性の確保に万全を図るとともに、山側の安全性向上を図るための急傾斜地対策の実施など、防災対策に配慮した施設整備に留意願いたい。

② 庄川勤労者体育センターの現利用者への配慮

・ 庄川勤労者体育センターのこれまでの利用者に対しては、施設の床板の土間化で検討したことから、近隣の庄川小学校体育館や雄神体育館など、代替施設を利用できるよう調整に留意願いたい。

③ 多様な施設機能への配慮

・ 高齢化社会の進展に伴い、10年後の市民ニーズも想定し、これまでの福祉センター機能と一線を画す軽運動施設を併設することから、若者から高齢者まで幅広い年齢層の方々が楽しめるような魅力ある事業を発信するよう留意願いたい。

・ 庄川地域の魅力の一つである温泉資源の提供をテーマとし、民間感覚による運営主体が求められ、地域の味、地域の人材の活用に留意願いたい。

・ 庄川地域の福祉拠点として、ケアポート庄川、庄川健康プラザと連携し、元気高齢者の集いの場となり、愛されるよう留意願いたい。

以 上

やまぶき荘及び周辺整備構想検討委員会 名簿

	氏名	機関・団体名・役職	
会長	坂井 彦就	庄川峡観光協同組合	理事長
副会長	野村 泰則	砺波市社会福祉協議会	会長
委員	飯田 良榮	庄川町商工会	会長
	河合 康守	砺波市老人クラブ連合会	会長
	竹林 順子	砺波市ボランティア連絡協議会	会長
	中本 悦子	砺波市連合婦人会	副会長
	西森 昭治	砺波商工会議所 青年部	会長
	水上 昭次	雄神地区自治振興会	会長
	横山 直一	砺波市体育協会	専務理事
事務局	川原 国昭	砺波市福祉市民部	部長
	齋藤 幸二	砺波市福祉市民部社会福祉課	課長
	高畑 元昭	砺波市福祉市民部社会福祉課地域福祉係	係長
	田中 博晃	砺波市福祉市民部社会福祉課地域福祉係	主任
	齊藤 和芳	砺波市社会福祉協議会	事務局長
	庄下 中	砺波市社会福祉協議会 庄川支所	支所長
	島田 達男	砺波市社会福祉協議会 総務課	課長